

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町 4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyl@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyl



縦の糸・横の糸

氷見市教育委員会

教育長職務代理者

北鹿渡 文照

歌手中島みゆきさんの「糸」という曲をよく耳にします。人と人との出会いが織りなす人間模様を、縦の糸と横の糸から紡ぐ布に例えたいい歌です。教育界では、教師と子どもの関係を縦の糸に、子ども同士の関係を横の糸に例えた論調を目にします。また、一般には上司と部下の関係を縦の糸に、同僚同士の関係を横の糸に例えることもできるかもしれません。いずれの場合にも、目には見えない人と人とのつながりや関係を、糸という具体物で表現しています。

ところで、私たちのいのちや人生にとって縦の糸・横の糸は何を意味しているのでしょうか。色々なとらえ方があると思いますが、私は次のように考えてみました。

まず、縦の糸は、親から子へ、子から孫へと受け継がれていくいのちのバトンとして時間的にとらえたいと思います。「我が家は私で〇代目」などと家のルーツが話題となることがありますが、実は初代の人にも両親がいるのです。とすれば、このつながりは、久遠の過去から現在の自分にいたるまで、ただの一度も途切れることなく綿々と受け継がれてきた、不可思議な、そして、かけがえのないいのちなのです。このいのちのバトンは、やがて子や孫へと受け継がれていくので

次に、横の糸は、家族や親戚、学校や社会の人々など空間的なつながりとしてとらえたいと思います。このつながりをさらに広義にとらえれば、直接的なつながりだけではなく、書物や情報機器などで出会う間接的なつながりにまで広げることができます。親友との出会いや尊敬したり目標としたりする人との出会い、良き師との出会いなどは、私たちのものの考え方や価値観、生き方にも大きな影響を及ぼします。

佐野洋子さんの『100万回生きたねこ』という絵本があります。絵本の中のねこは、何の感慨もなく漫然と100万回も生死を繰り返していました。ねこはあるとき自分に見向きもしない白いねこが好きになり、やがて結ばれてたくさんの子ねこが生まれました。ねこは初めて自分以外のものを好きになり、それを失ったとき初めて泣きました。やがてねこは死に、二度と生き返らなかったというお話です。この絵本は、愛すること、他者とともにあることを悟ることが、真の自己に立ち返る大きな要素であることを示しています。横の糸である他者の存在、しかも深いかわりのある存在が、縦の糸であるいのちの尊厳に気づかせ、自立への一歩を導いてくれるのです。

教育という営みは、次代を担う子どもたちがよりよい人生の布を織りなすことができるようにお手伝いをする事だと思えます。言うまでもなく、縦の糸である子どもたちのいのちは、かけがえのない貴重ないのちであり、二つとないそれぞれのよさをもったいのちです。このいのちを輝かせる横の糸となる教師には、単に知識の伝達にとどまらず、子どもたちとの人間同士の深いかわりが求められます。水が高きから低きに流れるように、知識も人間性も高きから低きに流れます。このような流れをスムーズにするためには、子どもたちとの信頼関係を築くための温かい眼差しと、子どもたちのいのちに向き合い導いていくための確かな眼差しと、そして、子どもたちのいのちの尊厳を尊びいじめや不正は絶対に許さないという厳しい眼差しが必要です。

教師の温かい眼差し、確かな眼差し、そして厳しい眼差しのもとで、子どもたちが紡ぎ出す布が光り輝くものになることを願ってやみません。

生徒指導推進委員会

Q-U調査を活用した学級づくり

窪小学校 教頭 平井 尚久

生徒指導推進委員会では、Q-U調査の活用について、分析や支援のアプローチ方法を検討し、実践を積み重ねてきました。今、みなさんにお伝えしたいことは、次の3点です。

- ① 調査結果は様々な視点から分析することが可能 **分かっていけば、分かることはたくさん**
 - ② 課題や実態に応じた手立て（アプローチ）が必要 **アプローチしてこそ生きるQ-U調査**
 - ③ 組織的に実施すると効果が上がる **知恵を出し合いチームとして実践、成果を共有**
- 一人一人が認め合い、仲間と共に学び合う学級づくりのために、成果があった取組等についての情報を共有できれば、氷見市の強みとなります。Q-U調査を活用しやすい環境をつくり、取り組んでいただきたいと思ひます。

学力向上推進委員会

「学ぶ力・教える力」を育てるための3本の矢

灘浦小学校 教頭 金原 礼子

学力向上推進委員会では、学ぶ(教える)力の育成を目指し、次のことに取り組みました。

○ 児童生徒用 **氷見市バージョン「5年算数 単元確認テスト」**

県作成「単元確認テスト」を基に、裏面に「ヒント」や「学習の要点」等を書き加え、自己教育力の育成を目指して作成しました。

○ 教師用 **「授業づくりノートⅡ」と「学力向上推進便り」**

昨年度作成した「授業づくりノートⅠ」を踏まえて先生方の実践を整理し、「授業づくりノートⅡ」を新たに作成するとともに、総ページ数38ページとなる「学力向上推進便り」を、毎月発行しました。

学びを支える一つの指針として活用され、授業改善を深める契機になればと考えます。



ふるさと学習推進委員会

「ふるさと氷見 —デジタル版—」を電子黒板等で活用を

西部中学校 教頭 荒屋 誠

今年度、ふるさと学習推進委員会では、「ふるさと氷見」のデジタル版の作成に取り組みました。内容項目は紙媒体の「ふるさと氷見」に準じており、静止画と動画から構成されています。画像データは、小中共通ホルダーの教育総合センターからダウンロードすることも可能です。社会科や総合的な学習の時間等で、活用していただけたら幸いです。

※ 静止画や動画のデータは、学校の授業等での使用に限定されていますので、扱いにはご配慮ください。



小中連携教育推進委員会

小中連携教育のよさを共有しよう！

上庄小学校 教頭 指崎 邦久

小中連携教育推進委員会では、各中学校区の特徴を生かした小中連携教育の取組をリーフレットにまとめました。それぞれの活動を整理していく中で、「教員の指導力向上」と「生徒指導」の切り口から、その意味をまとめることにしました。

「9年間の学びをつなぐ 支援をつなぐ」ためには「校区の小・中学校が互いの実態を知る」「学習指導要領に基づき、**学びの系統性を考える**」「課題、方策、成果を小・中学校で**共有し、次の指導に生かす**」ことの必要性が明らかになりました。

このリーフレットを活用し、小中連携教育のよさを共有するとともに、日々の活動に生かしていただけると幸いです。



平成 28 年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部 12 編、中学校の部 5 編の個人やグループからの応募がありました。

小中学校長会の協力を得て、小学校の部と中学校の部に分けて審査しました。広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小中学校それぞれの部門で最優秀賞、優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

〈小学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十二町小学校	宮林 次美	「つなぐ」「関わる」で学びに向かう力を高めていく授業づくりを目指して
優秀賞	窪小学校	澤村 梢	国語科の授業力向上を目指した、校内研修の活性化
優秀賞	明和小学校	船場 涼介	学ぶ喜びを実感し、主体的に学ぶ子供の育成
優良賞	朝日丘小学校	屋敷香奈子 滝本 浩希 干場 恵	「関わり」・「つながり」を大切に、自ら行動する子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	二塚 駿	積極的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	田中 志麻	一人一人が生き生きと活動し、友達と助け合いながら共に成長できる学級づくり
優良賞	窪小学校	伏江寿々花	主体的に言語活動に取り組み、論理的に思考する能力を身に付けていく子供の育成
優良賞	湖南小学校	笠井ゆかり	一人一人の子供が「分かった・できた」を実感できる授業づくり
優良賞	速川小学校	浦 武司	自ら考え、粘り強く学びつづける子供の育成
優良賞	久目小学校	松谷 彩加	「できる！」「分かる！」「やってみよう！」主体的に学びを深める子供の育成
優良賞	海峰小学校	中谷 亮	自ら考え、関わり合う授業を目指して
優良賞	灘浦小学校	竹岸 綾希	自分らしい表し方を見付け、友達と関わりながら、つくり出す喜びを味わう子供の育成

〈中学校の部〉

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十三中学校	十三中学校	自らの生き方を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成
優秀賞	南部中学校	森谷 信久	一人一人の生徒が主体的・協働的に学ぶ社会科学習の在り方
優良賞	北部中学校	英語部会	英語で自分の考えや気持ちを「書く」力を伸ばすための学習活動
優良賞	西部中学校	米田 香麗	言語活動を通して自ら読みを深める生徒を育てる指導はどうあればよいか
優良賞	西條中学校	NIE 研究推進チーム	主体的に学び、高め合う生徒の育成



[実践発表の様子]

以上の審査結果を基に、去る 2 月 7 日（火）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。山本教育長からの授賞後、西部教育事務所主任指導主事 山口健治先生より講評をいただきました。最後に、最優秀賞受賞者の十二町小学校 宮林次美教諭と十三中学校（代表三國大輔教諭）から教育実践についての発表がありました。詳細については当センター発行の「平成 28 年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

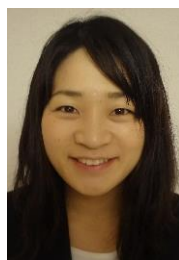


子供と共に

朝日丘小学校 藤坂 賢良

この一年間、子供たちは色々な表情を見せてくれた。笑顔や泣き顔、明るい顔、不安そうな顔等、その時々によって表情を変える子供たちと、一緒に過ごせた毎日が楽しかった。子供の表情の中で私が一番好きなのは、やはり笑顔であり、子供の笑顔からいつも元気をもらっていた。

今後、子供たちが笑顔で過ごせる日々が増えるよう、自己研鑽を積み、子供の目線を大切に、子供と共に成長していきたい。



恩師の思いに触れて

比美乃江小学校 山下 恵子

教師になりたいと夢を与えてくださった恩師に、同じ教師という立場で再会することができた。恩師の言葉を聞き、熱い思いで私たちを育ててくださったからこそ、自分が情熱をもって子供たちと向き合うことができるのだと実感した。私が恩師に憧れ教師になったように、子供たちは、これから、さまざまな環境の中で夢を描き成長していく。常に子供の心に寄り添い、子供たちに手本を示せるよう、教師として、一人の大人として成長していきたい。



子供と共に成長する教師

窪小学校 大和美智子

私が教員としての一步を踏み出したこの一年。私は、子供たちができなかったことができるようになった瞬間や、最後まで一生懸命に頑張る姿から日々元気をもらっている。しかし、子供たちの考えや発言をうまく生かせなかったり、私の一言でやる気をなくさせてしまったりしたことがあった。その時、あの言葉でよかったのだろうかと省み、子供へ投げかける言葉の大切さを実感した。子供と共に成長できる教師であり続けるために、これからも自己研鑽に努めていきたいと思う。



助け合う子供の育成

窪小学校 田中 大樹

この一年間、子供を理解しようと時間をかけて話を聞いてきた。すると、話を重ねるごとに、どの子も表情が穏やかになり、些細なことでも話をしてくれるようになった。また、困っている友達を助けて進んで助けようとしている姿を見たとき、教師としてのやりがいを感じることもできた。

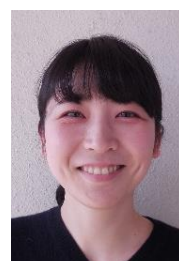
これからも、一人一人の子供の心に寄り添い、多面的に理解しながら指導をしていきたい。そして、子供たち同士心がつながり、互いに助け合えるクラスが作れる教師になりたい。



子供たちとの関わりから

湖南小学校 津田 彩花

ある日、誰にでも反抗的な態度をとることが多い子供が友達とのトラブルを相談に来た。その子供と友達の両者からじっくり話を聞くと、お互いの思い違いだったことが分かり、納得した表情で戻っていった。日頃は素っ気ない態度の子供が、私を頼ってくれたことがとても嬉しかった。迷いながらも、自分なりに真剣に子供たちと向き合ってきてよかったと感じた。これからも一人一人の子供に心を寄せながら、子供たちと共に頑張っていきたい。



子供の頑張りに寄り添う

十二町小学校 千財 唯

「あやとびは跳べないから嫌だ」と言っていた子供が、「先生、あやとびを数数えて」と笑顔でやってきた。1週間で20回も飛べるようになっていて、成長の早さに驚いた。同時に、何度も練習を重ねていた子供の姿が思い起こされ、努力なくして笑顔が見られないことも実感した。

これからも教室が多くの笑顔で溢れるように、子供の頑張りに寄り添っていきたい。